

主題：一贖いの十字架に気づき、**主**イエスに自分の最高の物を献げた人—
目標：—**主**を愛することは、まず、みことばを聞くことであると知り、それを優先する者となる—

2020/11/11

新約聖書の人物②

「ベタニヤのマリア」

ルカ10:38～42

ヨハネ11:17～44、12:1～8

エルサレムから南東3km(15スタディオン)にある村ベタニヤに、マルタとマリアそして弟ラザロの家があった。**主**イエスはどのような理由なのか、エルサレムに向かう時にはベタニヤに行かれ、この家に泊まるのを常としていた。この家は**主**イエスと弟子たちにとって、安心して休める、憩いの家であったようである。

主イエス一行をもてなすために、マルタはいつも手伝いの者たちを指揮して忙しく立ち働き、ラザロは弟子たちに中に入って**主**イエスの側で嬉しそうに座っている。そして妹マリアも弟子の1人のように**主**イエスの足元に座ってみことばに聞き入っていたのである。

マリアは姉マルタがイライラすることも、当然分かっていたであろう。しかし救い主のことば、御心を一つも残さず聞きたい、悟りたいと思っていた彼女の思いが優先していた。この**主**の御側での傾聴により、マリアの**主**のご本質を洞察する心と信仰は養われたのである。

弟ラザロの死後に**主**イエスが来られたとき、マリアはまず、**主**の足元にひれ伏して礼拝した。彼女の発した言葉と、姉マルタの言葉は同じである。しかしそのとき、**主**イエスの心に触れる何かがあり、その直後、**主**は涙を流され、ラザロの蘇りという奇蹟が成されたのである。

主イエスが奇蹟をなされるには、信仰を土台とされるという原則がある。故郷ナザレでは、不信仰が原因で何もできなかった。死んで4日経ったラザロが甦るという地上最大の御業は、マリアの信仰を土台にしてなされたのである。またそのマリアは、**主**が身代わりの死を通して贖いを成されることにも気づいていた。十字架に架かれる一週間前、これから起こる**主**イエスの受難、十字架の死に備え、マリアはナルドの香油を惜しげもなくお献げしたのである。

【聖書の学び】

I みことばに聞き入る、ベタニヤのマリア (ルカ10:38～42 p136)

- 1、**主**イエス一行をお迎えして、マルタとマリアはそれぞれどのようにしていましたか。
(ルカ10:39,40 p136)
- 2、マルタは**主**イエスに妹のマリアについて、何と言いましたか。(ルカ10:40)
- 3、**主**イエスはマルタについて、何と言われましたか。良い方を選んだといわれたマリアの良いこととは何でしょうか。(v41～42)

II、ベタニヤのマリアの**主**イエスへの信仰 (ヨハネ11:17～44 p205)

- 1、弟のラザロが病気で死んで4日目、**主**イエスはベタニヤに来られました。出迎えに行ったマルタは主に何と言いましたか。(ヨハネ11:21)

2、良く分からないマルタに、**主イエス**はどのように言われましたか。(ヨハネ11:25)

3、マリアが**主イエス**の所に来ましたが、彼女はまず何をしていますか。(ヨハネ11:32)

4、マリアと一緒に来た者たちが泣いているのを見て、**主イエス**はいつもとは違う思いを現されました。

①何を感じられたと思いますか。(ヨハネ11:33)

①なぜ、主イエスは霊の憤りを覚え、心を騒がせられたのでしょうか。(ヨハネ11:34)

②なぜ、主イエスは涙を流されたのでしょうか。(ヨハネ11:35)

Ⅲ、ナルドの香油を献げた、ベタニヤのマリア (ヨハネ12:1～8 p207)

1、**主イエス**が十字架に架かれる6日前、マリアはどんなことをしましたか。(ヨハネ12:3)

2、弟子のユダが文句を言うとき、彼女は何か言ったのでしょうか。(ヨハネ12:5)

3、**主イエス**はどのように言われましたか。(ヨハネ12:7、マルコ14:8,9 p98)

※ 証しの部分は都合により書面では載せていません。

YouTubeの動画には録音されていますので、お聴きください。

*** ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。